

〇コロナ禍を乗り越えて伝える 我らがまちの誇りと伝統

3年以上に亘って私たちの生活を脅かしてきた「新型コロナウイルス騒動」も、ウイルスの5類相当の位置付けにより、ひとまずは休止、ようやくかつての日常を取り戻しつつあります。マスクの着用について個人の判断に委ねられているはずですが、新型コロナウイルスがこの世から消え去ったわけではないですから、未だ多くの人がマスクを手放せない状況が続いています。しかし過剰に臆病になることなく、今は我々がまちの誇りと伝統としてきた見付天神裸祭を伝えるにあたって直面してきた課題について、改めて目を向け、前進すべき時と思います。

いくつもある課題の中で、大きな話題の一つに、子供連の参加者減少があります。上半身の裸やふんどし姿に抵抗感があるせいで、という意見があるのも事実です。今後この問題にどのように取り組んでいくのかは、保存会全体でしっかり議論していく必要があります。

ここに掲載した写真は、昭和50年代前半の西区玄社（幸町）の子供連の様子です。当時西区梯団は、現在のように梯団でまとまるのではなく、祭組ごとに道中練りを行っていました。当時からよく聞かれたのは、初子・初孫が男の子であれば、誕生の翌年に裸衆として出すというものです。これらの写真をみると、生後1年に満たない子は、男女関係なく真っ白な布オムツ（オムツが取

れたら白ブリーフ）に上半身白肌着を着せています。足袋や草鞋を履かせるのが難しいときは裸足で済ませていたようです。子供連の練りの先頭は前メをする風を装った高学年の男の子達ですが、よくみるとふんどし姿ではありません。いわゆる半ダコもしくは体操服のようなパンツを着用しているようです。今「正しい身なり」だといわれているところから考えると、随分と自由の効いた様子が伺えます。確かなのは、どの世代の子供も腰にサラシか肌着で腰褌を付け、その下は半ダコか白い下着、そして頭か首に祭組の手拭いを着用している点で共通しています。周りの大人達が、裸祭にとって何が伝統と誇りなのか、言い換えると何が一番大切なのか、それを経験的に理解して子供達に教えていたのではないかとも思います。どうやら子供連の身なりを考える上で、忘れてはいけない心がここに見え隠れしているように思います。



(左)生後11ヶ月の初子[昭和51年(1976)撮影]



(右)練りに出る直前の幼い兄妹[昭和53年(1978)撮影]



昭和53年(1978)玄社子供連の道中練り

◆令和5年度総会を開催しました

去る令和5年(2023)5月13日、令和元年度来4年ぶりに通常対面による総会を開催しました。保存会理事以下各部役員、各町から総代（崇敬者会）、自治会長、各町保存会長（祭典委員長）、警固長（実行部会員）、青年部員が一堂に会し、昨年度の活動報告と今年度の祭礼の諸行事の進め方について協議・確認しました。

今年度は、

- 1 裸祭の完全復活に向けて、実施要領の作成について
子供連における今後を見据えた取組みの検討・協議
行政が示す対処方針に準じた感染症安全対策実施要領の作成 等

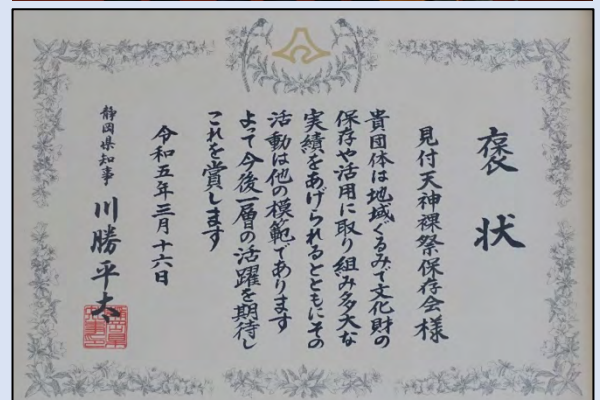
(以下、次頁に続く)

- 2 裸祭大祭当日の交通規制について
警察等と連携したわかりやすい規制内容及び範囲の設定
見付内外の住民への広報周知及びガードマンの適正な配置と数の設定 等
- 3 防潮堤建設工事に伴う浜垢離の実施について
工事期間中における「浜遊び」の場所の確保と参加者の健康と安全の確保 等
- 4 裸祭スタンプラリーの実施について
裸祭への参加者拡大を目的とした裸祭自体への理解や関心を深めるための普及啓発 等
- 5 中学生の祭参加の促進について
「よつばプロジェクト」文化継承活動の充実
若者の積極的な祭り参加を促す提案・取組み検討 等
- 6 裸祭ガイドブックの作成と広報活動について
普及啓発のための媒体としての内容の充実
関係団体との連携体制の構築と有償頒布による収入源の確保 等

の6つの項目について、保存会として重点的に取り組んで活動していくことを確認しました。特に、交通規制、防潮堤建設に直面して今後の浜垢離のあり方、子供・若手の担い手の確保は、出席者全員で、感染症対策と同様の喫緊の課題として共有することができました。今後は、各町との協議や意見交換を通じて、これらの課題解決に取り組む所存です。また今年度の活動計画（スケジュール）についても承認されました。

◆知事褒章の表彰式に出席しました

見付天神裸祭保存会が、令和4年度「ふじのくに文化財保存・活用推進団体」知事褒賞を受賞しました。去る3月16日、静岡県庁本館特別会議室で川勝平太静岡県知事から直接、知事褒賞の褒状がお祝いのお言葉と共に手渡されました。保存会から中山正典保存会長、宇藤孟副会長(崇敬者会責任役員)、伊藤兆彦副会長(実行部長)が出席しました。この受賞はふじのくに文化財保存・活用推進団体の中でその年に顕著な実績を示した団体が受けるものです。平成12年(2000)に国の重要無形民俗文化財に指定、平成14年(2002)に保存会が組織されて見付天神裸祭の保存伝承・活用に当たってきた功績と共に、令和4年(2022)のコロナ禍において「地域ぐるみ」で対策を講じて祭りを実施したことの2点を評価していただきました。特に2点目については新型コロナの感染拡大によって見送られた祭礼の諸行事について、安全対策を講じた上で3年ぶりに、御斯葉降し、浜垢離、神輿渡御等を実施し、県下の他の祭り・伝統行事の手本となったとして評価いただきました。



○今後の予定

- 6月17日(土) 19:00～ 実行部・青年部会(交流センター)
- 6月24日(土) 19:00～ 女性と語る会(交流センター)
- 7月11日(火) 18:50～ 自治会地区会(交流センター)
- 7月15日(土) 19:00～ 子供連連絡会(交流センター)
- 7月23日(日) 19:00～ 事務局会(つつじ館)
- 8月1日(火) 6:30～ 崇敬者会(天神社拝殿)
- 8月5日(土) 19:00～ 実行部会・青年部会(警固研修会)(交流センター)